

幼稚園・保育所における運動遊びと その指導に関する考察 ——実習生の調査から——

宮 下 恭 子

目的

子どもの遊びは心身の発達にとって欠くことのできない必須のものである。幼稚園の教育要領¹⁾の総則には、「幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習である」と謳われている。また、保育所保育指針²⁾は幼稚園教育要領との整合性に配慮されており、共に「生きる力」を養うことが強調されている。子どもは、初めて出会う幼稚園または保育所という社会において、保育者の援助を得ながら友達との遊びを通じて自ら逞しく生きていく基礎を培っていくのである。

したがって保育の現場における運動や身体活動による遊びの指導は、子どもの心身の成長・発達の直接的な影響及ぼすものであるので、幼児の健やかな成長を助ける幼稚園教諭、保育士は自ら心身ともに健康であり³⁾、急激な社会変化や人間関係の複雑さ等にも対応できる知識や技能を持ち合わせるより高度な資質が求められるであろう。

本研究は、幼児体育の指導法を体系化することを目的として、幼稚園と保育所の保育現場の実態調査を行い、両者の比較も交えながら、保育実習生の経験を通して概観できる運動や遊びの現状と指導上問題点について検討する。

方法 保育の実習生を対象に、保育園、幼稚園実習におけるあそび指導に関する調査を行った。

調査期間及び調査対象者

- ① 幼稚園実習後 2005年 6月下旬～7月上旬 T短期大学生2年生188名
- ② 保育所実習後 2005年 9月中旬 T短期大学生2年生165名

調査内容

- 1 対象園の概観（私立、公立 地域 園児数）
- 2 運動あそび環境（教室外の施設 園庭の広さ 固定遊具の種類）
- 3 運動やあそび指導と課外活動（園が力を注ぐ遊び 外部指導者委託の有無、運動の種類と週の実施回数 課外授業の実施の有無 課外授業の種類と週の実施回数）
- 4 運動や遊びの関わり（指導した遊び その理由 自己評価 指導のやり易い遊びと難しいあそび、ダンス、表現、）
- 5 自由遊びの関わり（関わった遊び 子どものよくする遊び）
- 6 指導の得意な遊び、不得意な遊び

結果と考察

1. 幼稚園・保育所の概観

(1) 実習先の保育所 幼稚園について

表1-1～1-3は学生が実習した保育現場の概要である。地域は東京とその周辺の市町村がほとんどであった。

表1-1 実習先の保育所、幼稚園について

	幼稚園		保育所	
	人数	%	人数	%
①公立	12	7	60	36
②私立	150	93	105	64
合計	162	100	165	100

表1-2 保育所、幼稚園の地域

	幼稚園		保育所	
	人数	%	人数	%
①東京都内	39	27	41	28
②関東地区	91	64	93	64
③その他	12	8	11	8
合計	142	100	145	100

表1-3 園児数

	幼稚園		保育所	
	人数	%	人数	%
①100人未満	25	16	71	45
②100～150人	29	18	57	36
③151～200人	31	19	21	13
④201～250人	21	13	7	4
⑤251人以上	53	33	2	1
合計	159	100	158	100

2. 運動あそび環境

(1) クラスルーム以外に使える教室やホールの有無

保育現場では、荒天時のことも考慮に入れて、各教室（保育室）以外に多目的に使用できる部屋が必要である。調査結果から、保育所よりも幼稚園の方が施設のない所が多い。これは1日の保育時間の長さとも関係があるとも考えられる。園庭の広さについては、実習生の主観的判断によるものであるが、幼稚園の方が園庭が広いと回答する方が多かった

表 3－1 保育所、幼稚園の施設について

	幼稚園		保育所	
	人数	%	人数	%
①ない	153	91	40	26
②ある	16	9	116	74
合計	169		156	

表 3－2 どんな施設ですか

	幼稚園		保育所	
	人数	%	人数	%
①体育館	66	54	22	18
②プレイルーム	74	61	76	62
③その他	33	27	27	22
合計	122		122	

(2) 園庭の広さについて

表 4 園庭の広さ

	幼稚園		保育所	
	人数	%	人数	%
①狭い	9	6	31	20
②やや狭い	22	14	33	21
③ふつう	32	20	49	31
④やや広い	47	29	21	13
⑤広い	52	32	24	15
合計	162		158	

(3) 園庭にある固定遊具について

園庭にある固定遊具については、老朽化や固定遊具絡みの事故の結果、ブランコを取り外したり、園庭での事故などの前例から特定の遊具の使用禁止処置をとっている園もあり、子ども達が夢中になって遊具に興じているという姿は見られなくなった。

表 5 園庭にある固定遊具

	幼稚園		保育所	
	人数	%	人数	%
①ブランコ	123	75	64	41
②滑り台	157	96	137	88
③ジャングルジム	106	65	91	58
④砂場	162	99	151	97
⑤その他	96	59	73	47
合計	164		156	

3. 運動やあそび指導と課外活動

(1) 幼稚園・保育所が特に力を注いでいた運動や遊び

保育現場では、自らの園の方針として子どもの活動をより活発化させ、保育目標に添った活動として園が力を注ぐ活動を行っていることが多く、幼稚園の方が「ある」との回答が多かった。

表 6－1 力を注いでいた運動や遊び

	幼稚園		保育所	
	人数	%	人数	%
①ある	82	54	41	27
②なし	71	46	113	73
合計	153		154	

①「ある」の回答について、どのような活動であるかを纏めると、以下のようになる。

幼稚園・・・体操系（リズム体操、組体操、はとぼっぱ体操、マット、鉄棒、跳び箱、体育あそびなど）39、サッカー5、ドッジボール3、プール2、鬼ごっこ2、泥あそび2、リトミック2、集団遊び2、なわとび2、その他（砂あそび、ゲーム、自然あそび、スクーター）

保育所・・・体操系（体操、体育あそび、マット、鉄棒、朝体操など）10、リズム運動8、リトミック4、運動会練習4、リレー・かけっこ3、サッカー2、なわとび2、泥あそび2、その他（竹馬、竹のぼり、遊具）

(2) 外部の指導者による運動やあそび指導

運動遊びの指導は、専門性を要求されることがあることや、保育者の高齢化や、女性の保育者がほとんどという現場の事情から、運動指導を専門に行う講師の派遣を依頼している園が多くある。幼稚園の場合は86%と多く園で外部講師を招聘していることがわかる。その内容は体操や、幼児体育が最も多く次いでスイミングであった。週の委託回数はほとんどが週1回であった。

表 7－1 外部の指導者への委託

	幼稚園		保育所	
	人数	%	人数	%
①なし	23	14	111	69
②ある	141	86	51	31
合計	164		162	

表 7－2 ②あるの回答から、どのような運動であるか

	幼稚園	保育所
体操・幼児体育系	117（注1）	6（注2）
スイミング	42	2
サッカー	11	
その他	各2～5（注3）	各1（注4）

（注1）体操、器械体操、体育指導、運動遊びなど

（注2）体操

（注3）ダンス、リトミック、バトンなどリズムダンス系

（注4）リズム運動、リトミック

表 7－3 週の委託回数

	幼稚園		保育所	
	人数	%	人数	%
1 回	100	81	34	89
2 回	23	19	4	11
合計	123		38	

8. 課外活動（希望者対象に）として外部指導者の委託

希望者に対しての課外活動を行っている園も、保育所よりも幼稚園の方が多く、内容は体操系が最も多く次いでサッカーであった。サッカー人気に呼応するように幼児の段階から、サッカーに触れることを希望する子どもや家庭が多いことが伺える。このことは保育時間の問題にも関係があると伺える。

表 8－1 課外授業（希望者対象に）として外部の指導者に委託

	幼稚園		保育所	
	人数	%	人数	%
①ある	130	82	13	9
②なし	29	18	133	91
合計	159		146	

表 8－2 ①「ある」の回答から、どのような運動

	幼稚園	保育所
体操系	92（注 5）	9
サッカー	68	
バレエ	19	
スイミング	10	
バトン	6	
武道系	4（注 6）	
リトミック		2

（注 5）体操教室、器械体操、新体操、なども含む

（注 6）剣道、空手、合気道など

表 8－3 週の委託回数

	幼稚園		保育所	
	人数	%	人数	%
1 回	79	71	11	100
2 回	19	17	0	0
3 回	11	10	0	0
4 回	1	1	0	0
5 回	2	2	0	0
合計	112		11	

4. 運動や遊びの関わり（指導した遊び その理由 自己評価 指導の容易な遊びと難しいあそび
ダンスや表現）

（１）実習で指導したあそび

次に、実習生が実際に指導に関わった種目について検討してみる。幼稚園、保育所のどちらの実習の場合も、多くの種目に取り上げられていることがわかる。中でも、鬼ごっこが最も多く、それを選んだ理由からわかるように、幼児の活発な活動が確保されることが容易なあそびである。

表 9－1 実習で指導したあそび

	幼稚園		保育所	
	人数	%	人数	%
①サッカー	8	9	2	3
②ドッジボール	5	6	2	3
③その他のボールあそび	7	8	4	6
④鉄棒	14	16	5	7
⑤跳び箱	1	1	2	3
⑥マット	3	3	4	6
⑦巧技台	0	0	2	3
⑧鬼ごっこ	32	36	23	32
⑨かけっこ	8	9	8	11
⑩なわとび	5	6	8	11
⑪フープ	1	1	0	0
⑫ダンス	1	1	0	0
⑬表現あそび	9	10	6	8
⑭体操（リズム体操も含む）	19	21	6	8
⑮その他	32（注 7）	36	28（注 8）	39
合計	89		71	

（注 7）ゲーム（フルーツバスケット、ハンカチ落とし、椅子取り、しっぽとりゲームなど） 13

歌あそび（アブラハムの子、むっくりくまさん、じゃんけん列車など、猛獣狩り） 4、

鬼ごっこ、だるまさんが転んだ 3、

その他（押しくらまんじゅう、リトミック、乾布摩擦、フリスビー、プール、身体あそび）

（注 8）だるまさんが転んだ、フルーツバスケット、リトミック、外あそび

表9-2 選んだ理由（複数回答）

	幼稚園		保育所	
	人数	%	人数	%
①発達段階を考えて	26	31	15	25
②子どもの希望	25	30	16	27
③自分が得意	9	11	4	7
④指導の先生の勧め	12	14	8	13
⑤運動量が適当	12	14	11	18
⑥その他	21（注9）	25	9（注10）	15
合計	84		60	

（注9）楽しそう5、日課に取り入れている4、喜びそう2、導入として1、季節を考えて2、子どもの顔を知るため1、活発だから1、はやっているから1、発散させるため1、保育内容を考慮して1、など

（注10）活動の一環として1、行事に合わせて1、喜ぶから1、おもしろそうだから1、何をすればいいのかわからなかった1、雨の日なので身体を動かす機会をつくる1、子どもの可能性を知る1など

（2）遊び指導の自己評価

表10は指導時の自己評価である。幼稚園実習の場合はほとんどの学生がふつう以上の自己評価を示している。保育所実習の場合も同様であり、実習時の自己評価は比較的高く、自分自身がよくやっていると評価していることがわかる。

表10 指導の自己評価

	幼稚園		保育所	
	人数	%	人数	%
①まったくよくできなかった	1	1	5	4
②よくできなかった	21	18	21	16
③ふつう	58	49	88	67
④よくできた	36	30	15	11
⑤たいへんよくできた	3	3	3	2
合計	119		132	

（3）指導の容易だったあそび

表9-1に示したように実習で行った遊び指導は鬼ごっこが最も多く選ばれていたが、表11に示したように指導の容易だったあそびとしても鬼ごっこが選ばれている。その理由として多いものは、表12から、ルールが簡単、子どもに人気、子どもがよく知っている、指導のポイントが抑えやすいなどであり、そうした条件を鬼ごっこが備えているといえよう。

表11 指導の容易だったあそび

	幼稚園	保育所
鬼ごっこ	33 (注11)	26 (注12)
手遊び	14	12
サッカー・ドッジボール・ボールゲーム	7	2
ゲーム	14 (注13)	9 (注14)
砂あそび	5	9
なわとび・大なわとび	5	3
わらべ歌・ダンス・表現・	12 (注15)	4 (注16)
固定遊具	9 (注17)	3 (注18)
ままごと・ごっこ	3	4
制作	2	4
かけっこ	3	3
ブロック		5
その他	4 (注19)	4 (注20)

(注11) 鬼ごっこ (鬼ごっこ、色鬼、高鬼など29、だるまさんが転んだ3、かくれんぼ1)

(注12) 鬼ごっこ (鬼ごっこ、色鬼、高鬼など24、だるまさんが転んだ1、かくれんぼ1)

(注13) ゲーム (フルーツバスケット4、ハンカチ落とし1、椅子とり2、その他のゲーム3 タイヤジャンケン2)

(注14) ゲーム (フルーツバスケット3、ハンカチ落とし1、しっぽとり2、その他のゲーム3)

(注15) わらべ歌他 (わらべうた2、歌遊び1、殿様蛙1、リボンの新体操1、お遊戯、リズム体操)

(注16) わらべ歌他 (わらべうた1、歌遊び3)

(注17) 固定遊具 (ブランコ1、のぼり棒1、鉄棒7)

(注18) 固定遊具 (鉄棒2、その他1)

(注19) その他 (コマ2 折り紙1、制作1、紙芝居1、絵本1)

(注20) その他 (折り紙1、新聞紙3)

表12 指導が容易な理由

	幼稚園	保育所
ルールが簡単、ルールを守る	21	14
子どもがよく知っている	13	11
みんなができる	5	8
子どもに人気ある	31 (注21)	8 (注22)
活発に動ける	7 (注23)	1 (注24)
子どもの注目を集めやすい	4	1
指導のポイントが押さえやすい	8 (注25)	10 (注26)
遊びの展開がしやすい	3	
子どもと一緒に楽しめる	3	5
日ごろよくしている	3	2
ピアノや音楽を使える	3	2
自由に遊べる	3	4
その他	5 (注27)	5 (注28)

(注21) 子どもが好き10、興味を持つ9、楽しめる1

(注22) 興味を持つ3、みんなが楽しめる3

(注23) 活発に動ける2、競争心をそそる2、積極的に遊べる2、乗りがいい1

(注24) 積極的に参加1、紅白で対抗できる1

(注25) 自分がうまくなれるコツを知っている3、できる子の意見を聞ける1、説明しやすいや理解がしやすい3、補助がしやすい1、言葉かけができる1

(注26) 自分が得意2、補助の仕方がわかる1、年齢に合った指導ができる1、言葉の説明がいらない1、作り方が解説している1、ゆっくりすればできる1、一人ひとりに声かけができる1、

(注27) 応援がしやすい1、人数が少なくてもできる1、制作したものをを使って遊べる1、はさみを使える1、想像力で遊ぶ1

(注28) おちついて遊べる1、主活動でやったことがある1、先生が鬼をやる1、狭い場所でできる1

(4) 指導の難しかったあそび

一方、指導の難しかったあそびは、幼稚園では鬼ごっこやゲーム、サッカー、ドッジボール、ボールあそびであり、保育所では固定遊具、器械運動、ゲーム、サッカー、ドッジボール、ボールあそびであった。鬼ごっこは、指導の難しかったあそびでもあることがわかり、その理由として、ルールの理解に問題があることがわかる。したがって、鬼ごっこは実習生にとっては、子どもに人気があるので導入しやすいが、実際に遊び始めると、年齢や個人差によって理解の程度がまちまちになる場合が生じてくるあそびでもあるので、指導力が問われるあそびでもあるといえる。

表13 指導の難しかったあそび

	幼稚園	保育所
鬼ごっこ	12	4
ゲーム	10	5
ドッジボール・サッカー・ボールあそび	6	5
ごっこ遊び	3	1
かけっこ・リレー	1	1
固定遊具・器械運動	5	6
歌あそび・ダンス・リズム遊び	3	4
砂あそび	2	
なわとび		2
その他	8	41

指導の難しかったあそびの理由は以下に示す。

その理由（幼稚園）

鬼ごっこ（色鬼、氷鬼、かくれんぼ、けいどろ、しっぽとりなど）

- ・ルールがわからない子がいる 3
- ・ルールを守らない 1
- ・子どもによってルールが違う 2
- ・子どもの集中力が続かない（暑さのため、鬼が捕まえられない） 2
- ・異年齢だと体力差が出る 1

ゲーム（フルーツバスケット 4、ネコとねずみ 1、ハンカチ落とし 1、ジャンケン列車 1、室内ゲームなど）

- ・ルールが理解できない子がいる、ルールを説明するのが難しい
- ・みんなが鬼、ネコになりたがる
- ・円になるのが難しい
- ・ルールの説明が難しい

ドッジボール

- ・ルールが理解できない
- ・勝手にやる
- ・子どもがボールに慣れていなかった

ごっこ遊び

- ・アニメの主人公やストーリーがわからなかった
- ・滑り台でおままごとをして泥だらけになった

かけっこ

- ・ヨーイ・ドンが理解できない
- ・チーム分けが難しい

固定遊具

- ・鉄棒（3） 指導が難しい、自分がお手本をできない、子どもがどこまでできるかわからない
- ・スベリ台 安全のための注意の与え方が難しい
- ・うんてい 発達段階にあった指導が難しい

歌遊び

- ・あぶくたった 個々に勝手に遊びだす
- ・リズム遊び 動きが難しすぎた

砂あそび

- ・みんながやろうとしない
- ・どう関わっていいのかわからない

その他

- ・おしくらまんじゅう 3歳児には説明が難しかった
- ・水遊び 流れがわからなかった
- ・自由遊び 遊びの幅をひろげられなかった
- ・なわとび 発展させても、上手に遊べない、楽しめなかった
- ・ブロック 子どもの創造力についていけない
- ・体操 集合のさせ方が難しかった
- ・製作 はさみの使い方の指導が難しい
- ・ピアノカ 子どもが飽きてくる

理由（保育所）

鬼ごっこ（かくれんぼ、氷鬼、けいどろ、しっぽとりなど）

- ・ルールがわからない子がいる
- ・ルールを守らず、ただの鬼ごっこになる

ゲーム（椅子とり、伝言ゲーム、ジャンケン列車1、だるまさんが転んだ、落ちた落ちたなど）

- ・子どもの名前がわからない
- ・場所が狭かった
- ・約束事が多かった
- ・歌うリズムが難しかった
- ・年齢が小さくルールが理解できない
- ・約束事が多い
- ・椅子の取り合いで転ぶ子が多くいた

サッカー・ドッジボール・ボールゲーム

- ・したことがない
- ・個人差が大きい

ままごと、ごっこ遊び

- ・子どもなりのこだわりがある

かけっこ・リレー

- ・ヨーイ・ドンが理解できない
- ・順番に行くのが理解されなかった

固定遊具

- ・鉄棒（3） 常に安全に注意が必要、自分がお手本をできない、言葉かけが難しい
- ・指導方法が難しい、腕や手首の力が弱い
- ・スベリ台 危険性がわからない、逆さから登る子がいる
- ・跳び箱 どう指導してよいかわからない
- ・うんてい 発達段階にあった指導が難しい

歌遊び

- ・知らない歌に興味を示さない
- ・リズム遊び 動きが難しすぎた、どのようにしたら歌いやすいかわからない

その他

- ・玉入れ ルールの指導が難しい
- ・自由遊び 遊びの幅をひろげられなかった
- ・なわとび 上手に遊べない 見本を見せなければ伝わらない
- ・ブロック 子どもだけで出来てしまう
- ・プール 安全性に気遣ってばかりになる
- ・タイヤ そばに小さい子が居て危険だった
- ・ダンス 不得意
- ・組体操 注意点が多い

(5) ダンスや表現あそびの指導

幼稚園教育要領の5領域⁹⁾に「表現」があるが、そのねらいに「感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ」と明記されている。そのことは、表現は言葉だけではなく、表情や身振りで自分を表現し、歌ったり、踊ったりすることも含まれることが解説されている。子どもは音楽やリズムに合わせて踊ったり、跳んだり、スキップしたりすることが大好きである。

ダンスや表現あそびは運動あそびとは目的が少し異なるが、感性を磨き、感情を豊かに表現する大切な活動である。しかし、リズム体操や既成のダンスは比較的取り入れられているが、即興表現や模倣などは指導者にとってかなり負担に感じるあそびでもある。それは、指導者の苦手意識や動き方がわからない、子どもに手本を示さねばならない、といった不安感も存在する。そして、標準的な動きが明確でないことや、自分の動きに自信がないなどから、指導計画に乗せて継続的に指導されにくい部分がある。

そうしたことから、ダンスや表現あそびの指導はどのように扱われているのかを探る上で、以下に調査結果を示した。

ダンスや表現あそびを指導した実習生は幼稚園、保育所のどちらも10%強の学生だけであった。指導の内容では、自分の感情をや考えを出すような創作や表現は少なく、既成のダンスや、アニメヒーローのリズム体操のようなものの方が断然多かった。そして、しなかった理由では機会がなかった、時間がなかったとの理由が断然多く、じっくり考える余裕のなさ、自信のなさが垣間見られる。また、「した」の回答の学生による「苦労した点」は自分が動きながら子どもに指示し、子どもと左右反対の動きをしなくてはならないこと、わかりやすい説明が必要など、相当準備が必要と考えられる。

表14-1 ダンスや表現あそびの指導

	幼稚園		保育所	
	人数	%	人数	%
①しない	128	85	122	88
②した	23	15	16	12
合計	151		138	

表14-2 指導の内容

	幼稚園	保育所
朝の体操・ダンス	3 (注29)	1 (注34)
既成の体操・ダンス	8 (注30)	1 (注35)
歌に合わせて表現・振り付け	4 (注31)	
リズムダンス・体操	3	3 (注36)
創作・表現	3 (注32)	
その他	2 (注33)	10 (注37)

(注29) 既成の体操・ダンス・・・たこやきたいそう、アンパンマン体操、はとぼっぼ体操、殿様蛙出世小唄、蓋踊り、元気体操

(注30) リズムダンス・体操・・・ジャンプ、ひよこの真似、にんにん忍者、

(注31) 創作・表現・・・新聞紙を使って、お舟ごぎ、

(注32) 歌に合わせて表現・・・動物のまね、セサミストリーットの歌に振り付け

(注33) その他・・・リトミック、親子体操

(注34) 先生と体操

(注35) アブラハムの子

(注36) リトミック、太鼓おどり、手でリズム表現

(注37) 動物ごっこ、くまさん、動物の真似、新聞紙で表現、ダンス、運動会のおどり 6

苦労をした点 (幼稚園)

- ・自分が覚えるのが大変 2、子どもが覚えるのに時間がかかった 1
- ・途中であきらめる子への対処の仕方、参加しない子がいる、子どもがまとまらない

- ・子どもにわかる忍法の表現が難しい。表現が難しい
- ・動きながらの説明が難しい、声を出すことが大変、わかり易い説明、リズムに合わせて動ける言葉かけが難しい、歌に合わせて身体を動かすことが難しい
- ・子どもと反対向きで行うこと
- ・踊りに夢中になり途中で歌わなくなってしまった
- ・自由表現ができない子がいる
- ・リズムにのれない。

苦勞をした点（保育所）

- ・友達同士のトラブル
- ・説明のしかた
- ・ステップの踏み方
- ・しない子がいる
- ・子どもたちが衝突しないように気をつける
- ・振り付け
- ・見本を見せること
- ・覚えるのに苦勞
- ・子どもが思うように動かない
- ・自分が動きながら子どもに伝えること
- ・リズムの取り方
- ・子どもと左右反対に動く
- ・背筋を伸ばして正しい姿勢をする

しなかった理由（幼稚園）

- ・機会がなかった 17
- ・時間がなかった 6
- ・自分が苦手
- ・園でリトミックをやっていた、先生がリズム体操をしていた
- ・指導の先生に言われなかった、他のものをやりたかった。

しなかった理由（保育所）

- ・機会がなかった 14
- ・時間がなかった 7
- ・先生がしていた 3
- ・園がしていない 2
- ・得意ではない
- ・2歳児だったのでしなかった
- ・場所がなかった

5. 実習園での自由あそび

（1）自由あそびで子どもたちと一緒にに行った遊び

幼稚園、保育所で過ごす子どもたちは、友達と自由な活動ができる自由遊び時間が楽しみであり、子どもの個性を引き出したり、技能を高めたりする時間でもある。保育者は時間が許す限り子どもと一緒に遊び、あそびの中での安全性に気を配りながらも、子どもの自発性を見守っていかなければならない。

そこで、表15-1～表15-2から、自由遊びへの保育者の関わりかたについて検討する

子どもと一緒にいった自由遊びは、室内あそびでは絵本やごっこあそびが多かった。屋外あそびでは、鬼ごっこ、かけっこ、なわとびなどが多かった。幼稚園と保育所を比較すると、幼稚園のほうが大きな偏りはない傾向にある。歌や音楽、ゲームは幼稚園、保育所とも比較的少ないが、これらの活動はどちらかといえば、保育者の援助を必要とする活動であるので、子どもの自発的な自由活動には難しい面もある。

表15-1 子どもとした自由遊び（室内）

	幼稚園		保育所	
	人数	%	人数	%
①絵本	142	87	138	85
②絵画や制作	89	54	32	20
③折り紙	90	55	46	28
④歌や音楽	46	28	24	15
⑤ゲーム	59	36	24	15
⑥ごっこ遊び	124	76	94	58
⑦人形あそび	50	30	29	18
⑧手あそび	70	43	68	42
⑨お絵かき	124	76	62	38
⑩その他	46（注38）	28	33（注39）	20
合計	164		163	

（注38） その他（フープ2、ブロック4、粘土3、ゲーム、紙芝居、ハンカチあそび、など）

（注39） その他（ブロック5、粘土2、カードゲーム、あや取り、投げる、ピタゴラスイッチ）

表15-2 子どもとした自由遊び（室外）

	幼稚園		保育所	
	人数	%	人数	%
①サッカー	67	41	39	26
②ドッジボール	21	13	4	3
③その他のボールあそび	29	18	19	13
④鉄棒	114	70	59	39
⑤跳び箱	11	7	3	2
⑥マット	13	8	5	3
⑦巧技台	11	7	9	6
⑧鬼ごっこ	131	80	76	51
⑨かけっこ	102	62	69	46
⑩なわとび	65	40	31	21
⑪フープ	21	13	16	11
⑫ダンス	8	5	5	3
⑬表現あそび	6	4	4	3
⑭体操（リズム体操も含む）	23	14	21	14
⑮その他	30（注40）	18	35（注41）	23
合計	164		150	

（注40） 砂場16、泥あそび3、かくれんぼ3、固定遊具5、ごっこ3、虫取り2、三輪車2、1輪車2、はないちもんめ、すもう、水あそび、など

（注41） 砂場19、泥あそび3、虫とり3、かくれんぼ3、ままごと、ぼうけん、わらべうた、固定遊具、三輪車、すべり台、ホッピング、アスレチック、タイヤ、リレー、など

（2）自由あそびで子どもがよくしていた遊び

屋外での自由あそびで子どもがよくしていた遊びは、幼稚園、保育所とも室内では、絵本が多く、次いで、ごっこ遊びやお絵かきであった。室外での遊びでは、幼稚園保育所でも鬼ごっこが最も多く、次いでかけっこや鉄棒であった。特に鉄棒は幼稚園で多く70%あり、外部指導者の指導の影響が伺える。男女別に見ると表16-1から、男児では年少、年中では砂あそびとブロックあそびが多い。年長では、サッカー、鬼ごっこが多く、ルールや競争のあるあそびが好まれている。表16-2から、女児では年少、年中は砂あそび、ままごと、ごっこあそびが多く、ごっこ、鬼ごっこ、ままごとが多く、年長になるにしたがってルール、役割のあるあそびが好まれるようになる。

男児 表16-1 自由あそびで子どもがよくしていた遊び

年少	幼稚園	保育所	年中	幼稚園	保育所	年長	幼稚園	保育所
砂あそび	63	15	砂あそび	33	15	サッカー	39	13
ブロック	24	54	ブロック	21	46	鬼ごっこ	33	20
三輪車	9	3	鬼ごっこ	18	6	虫とり	16	17
ごっこ	7	6	ごっこ	8	8	ごっこ	15	6
すべり台	6		かけっこ	5	1	ブロック	11	27
おもちゃ	6		戦いあそび	4	2	製作・粘土	8	1
戦いあそび	5	4	製作・粘土	4	0	かけっこ	6	0
製作・粘土	4	1	折り紙	4	2	粘土	3	0
ままごと		8	ジャングルジム	4	0	かけっこ		6

女児 表16-2 自由あそびで子どもがよくしていた遊び

年少	幼稚園	保育所	年中	幼稚園	保育所	年長	幼稚園	保育所
砂あそび	61	21	砂あそび	31	21	ごっこ	29	13
ままごと	15	31	ごっこ	29	9	鬼ごっこ	22	11
ごっこ	10	12	ままごと	18	32	ままごと	20	17
ぶらんこ	7	2	鬼ごっこ	10	7	砂あそび	11	6
すべり台	5		泥あそび	10	2	お絵かき	6	11
人形あそび	4	9	ぶらんこ	7	2	花いちもんめ	6	
遊具あそび	4	3	鉄棒	7	4	泥あそび	6	2
ブロック		20	絵本	5	2	なわとび	5	9
お絵描き		7				ぶらんこ	5	2

IV 指導の得意不得意について

(1) 子どもを指導する際の得な活動、不得意な活動

子どもを指導する際の得な活動、不得意な活動については表17-1、表17-2に示す。得意な活動は本の読み聞かせ、手遊びであった。その理由は、経験が多い、自分が好き、得意、自分が楽しめる、子どもの反応がよいから、などである。

不得意な活動は、絵画、製作、歌、楽器、演劇、表現あそびなど、自己表現をするものが多かった。また、生き物飼育も不得意が多く、それらの理由は、苦手（運動、ピアノ）、ぶきっちょ、不得意、説明が難しい、指導の仕方がわからない、指導が難しい、などが多かった。得意な活動に比べ、不得意な活動は幅広く、学生の不得意な活動の幅広さが伺える。

表17-1 指導の得意なもの

	幼稚園		保育所	
	人数	%	人数	%
①絵画	21	13	14	9
②制作	21	13	25	16
③歌	39	24	28	18
④楽器	13	8	8	5
⑤演劇	1	1	0	0
⑥手あそび	101	62	89	57
⑦本の読み聞かせ	107	66	97	62
⑧運動あそび	28	17	19	12
⑨表現あそび	3	2	2	1
⑩体操	10	6	7	4
⑪リズム運動	8	5	4	3
⑫ダンス	8	5	4	3
⑬生き物飼育	3	2	1	1
⑭水遊び（プールも含む）	10	6	4	3
⑮砂遊び	48	30	38	24
⑯ごっこあそび	18	11	14	9
⑰折り紙	22	14	14	9
⑱その他	0	0	0	0
合計	162		156	

得意の理由（幼稚園）

・経験が多いから	63
・自分が好きだから	83
・自分が得意だから	24
・身体を動かすのが好きだから	14
・説明がしやすい	6
・自信を持って教えられる	7
・子どもと一緒にできていると感じられる	7
・説明しやすい	6
・やりやすかった	6
・子どもをひきつけやすい	6

得意の理由（保育所）

・経験が多いから	16
・自分が好きだから	54
・自分が得意だから	10
・自分も楽しめる	9
・身体を動かすのが好きだから	5
・説明がしやすい	4
・自信を持って教えられる	3
・子どもと一緒に楽しくできる	9
・子どもが楽しんくれる	2
・やりやすかった	6
・子どもの反応がよい	13
・うまくできた	5
・教えやすい	4
・自信がついた	3

- ・たくさんの知っている 3
- ・その他（教えるのが好き、子どもと接してられる、子どもとのやり取りが得意、演じる、感情をこめてする、止まりながら進められる）

表17-2 指導の不得意なもの

	幼稚園		保育所	
	人数	%	人数	%
①絵画	29	18	30	20
②制作	57	36	45	31
③歌	47	29	21	14
④楽器	32	20	16	11
⑤演劇	44	28	16	11
⑥手あそび	8	5	3	2
⑦本の読み聞かせ	8	5	2	1
⑧運動あそび	13	8	15	10
⑨表現あそび	24	15	15	10
⑩体操	21	13	15	10
⑪リズム運動	32	20	23	16
⑫ダンス	30	19	16	11
⑬生き物飼育	34	21	29	20
⑭水遊び（プールも含む）	16	10	5	3
⑮砂遊び	1	1	0	0
⑯ごっこあそび	10	6	4	3
⑰折り紙	23	14	20	14
⑱その他	0	0	0	0
合計	160		147	

不得意の理由（幼稚園）

- ・苦手（運動、ピアノ、歌）ぶきっちょ 47
- ・やったことがない、経験が少ない 15
- ・説明が難しい 29
- ・以前うまくできなかった 7
- ・動物や、虫が嫌い 7
- ・表現や演技が下手、なりきれない 8
- ・知識が乏しい 3
- ・指導の仕方がわからない 5
- ・難しい 3
- ・子どもの様子につかめない、掌握できない 9
- ・覚えられない、やり方がわからない 7
- ・言葉かけが難しい 6
- ・嫌い 3
- ・ピアノを弾きながら子どもを見ることができない 2

不得意の理由（保育所）

- ・苦手（運動、ピアノ）ぶきっちょ、不得意 44
- ・やったことがない、経験が少ない 7
- ・説明が難しい 15
- ・以前うまくできなかった 3
- ・動物や虫が嫌い、 2
- ・表現や演技が下手、なりきれない 3
- ・知識が乏しい 5
- ・指導の仕方がわからない、指導が難しい 10

・難しい	11
・子どもの様子がつかめない、一斉は苦手	3
・覚えられない、やり方がわからない	7
・嫌い	2
・ピアノが苦手	12
・危険を伴う	1
・疲れる、身体が硬い	2
・うまくできなかった、うまく表現できなかった	4
・課題の選び方のミス	1
・まとめるのが難しい	3
・子どもの個人差がわかる	2

まとめ

幼児体育の指導法を体系化することを目的として、保育実習生の経験を通して概観できる運動や遊びの現状と保育上の指導問題点について検討していくために保育現場の実態調査を行った。その結果と考察を以下のように纏める。

保育現場では、自らの園の方針として子どもの活動をより活発化させ、保育目標に添った活動として園が力を注ぐ活動を行っていることが多い。

運動遊びの指導は、専門性を要求されることがあることから、運動指導を専門に行う講師の派遣を依頼している園が多い。その内容は体操や、幼児体育が最も多く次いでスイミングであった。

実習生が実際に指導に関わった種目は、鬼ごっこが最も多いが、幼児の活発な活動が確保されることが容易なあそびである。

幼稚園実習での指導についてはほとんどの学生がふつう以上の自己評価を示している。保育所実習の場同様であり、実習時の自己評価は比較的高いことがわかる。

指導の難しかったあそびは、鬼ごっこやゲーム、ボールあそび、固定遊具、器械運動、であった。鬼ごっこは実習生にとっては、子どもに人気があるので導入しやすいが、実際遊び始めると、年齢や個人差によって理解の程度にばらつきがあり、指導力が問われるあそびでもあるといえる。

ダンスや表現あそびを指導した実習生は少なかった。指導の内容は、自分の感情を考え出すような創作や表現は少なく、既成のダンスや、アニメのリズム体操のようなものが多かった。しなかった理由では、機会がなかった、時間がなかった、などじっくり考える余裕のなさと、自信のなさや垣間見られる。指導に苦労した点は、動きながらの子どもへの指示、子どもと左右反対の動き、わかりやすい説明の必要性など、相当準備が必要と考えられる。

子どもと一緒にいった自由遊びは、室内あそびでは絵本やごっこあそびが多かった。屋外あそびでは、鬼ごっこ、かけっこ、なわとびなどが多かった。歌や音楽、ゲームはどちらかといえば、保育者の援助を必要とする活動であるので、子どもの自発的な自由活動には難しい面もある。

子どもがよくしていた屋外の自由あそび遊びは、男児の年少、年中では、砂あそびとブロックあそびが多い。年長では、サッカー、鬼ごっこが多く、ルールや競争のあるあそびが好まれている。女児では年少、年中は砂あそび、ままごと、ごっこあそびが多く、年長になるにしたがってルール、役割のあるあそびが好まれるようになる。

子どもを指導する際の得意な活動は、本の読み聞かせ、手遊びであった。その理由は、経験が多い、自分が好き、得意、自分が楽しめる、子どもの反応がよいから、などである。

不得意な活動は、絵画、製作、歌、楽器、演劇、表現あそびなど、自己表現をするものが多かった。また、生き物飼育も不得意が多く、それらの理由は、苦手（運動、ピアノ、）ぶきっちょ、不得意、説明が難しい、指導の仕方がわからない、指導が難しいなどであった。

以上のことから、実習段階での指導は、かなり準備をしても子どもの遊びの進行に伴いとまどうことが多いことや、苦手なものに対しては、指導の仕方がわからないなど、自分自身の資質の向上に向けた努力が必要である。

したがって、短大での授業では、学生自身のあらゆる面での専門性のある資質を高め、幼児に対する言葉かけを始めとする指導力を身につけさせる必要性を感じる。

引用文献

- 1) 中嶋雄一編 実践 新・幼児教育要領ハンドブック 学習研究社 2004 4 p 162-169
- 2) 中嶋雄一編 よくわかる 新・保育所保育指針ハンドブック 学習研究社 2004 4 p 6-13
- 3) 宮下恭子、岡崎比佐子 幼児教育科学生の健康に関する意識調査(1)―実習時の運動あそびの指導との関連― 東京成徳短期大学紀要第39号 2006 3 p 25
- 4) 中嶋雄一編 実践 新・幼児教育要領ハンドブック 学習研究社 2004 4 p 181